

第4回 南海地震津波対策検討会本部PT会議 議事録

市長あいさつ

3月31日にご承知の通り、中央防災会議の方から津波高の見直しが発表されました。須崎市も23.9mという事で、それを受けて本日の開催となります。

基本的に防災対策は、ハードとソフト。そして地震発生前と発生後、それぞれの対策を総合的にとっていく。それを有義的に結び合わせる事が、市民の生命・財産を守っていくという事につながっていくと思っております。

そういう点で今日も後ほど地震発生前の防災についての話もあろうかと思いますが、どうか色々ご協議頂きまして適切なお話を頂きたい。

・議長（副市長）

今回は3月31日に内閣府から公表された津波の想定高を基に、若干の見直し点、新たな検討課題等も見えてきておりますので、この案件について、本部PT会議としての考え方をまとめたのが1つ。

もう1つは、市長からも話がありましたが、従来の地震が発生してからの防災対策では、すべての要援護者を救う事が出来るのかという大きな課題があり『少しでも死者ゼロにしたい・ゼロに近づきたい』と考え、地震発生前からの防災対策が必要ではないか思い第4回のPT会議から新たに地震の前兆現象を基にした地震発生前対策に取り組んでいきたいと考えております。

本部PT会議の皆様の意見を伺いながら、地震発生前防災をどういう風にやっていったらいいのか皆様の考え方をまとめていきたいと考えております。

本日は、この2点を中心に議事を進めていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

【南海トラフの巨大地震モデル検討会の報告について】

内閣府南海トラフの巨大地震モデル検討会 3月31日公表

昨年8月に内閣府にされたこの検討会では、科学的な地検に基づいて南海トラフ上で発生が予想される最大クラスの震度分布、津波高の推計を取りまとめている。

昨年12月には、想定新断層域の設定、津波高の推移の考え方が中間報告として示されていた。

今 回

震 度 分 布・・・強震動断層域の拡大とマグニチュードが9.0（東北クラスのマグニチュード）の想定がされたことから、震度が6強から7に上がった。

須崎市の津波高・・・四国沖の大すべりが起こった場合の最大津波高が23.9m（11パターンのシミュレーションが検討会の中で行われてきて、それを抽出した結果）

国より今後10mメッシュの詳細な結果が出される。
県も秋にシミュレーションを含めた結果を示すことになっている。

須崎市ではこれまで20m以上でさらに高い所へ上がれるという観点で津波からの緊急避難場所を決めてきていましたが、さらに高い津波が想定をされることを踏まえて、ご協議を頂ければと思っています。

現在の緊急避難場所については、山の高台を基本に避難経路の整備などを市内8地区の防災連絡協議会と話し合いをしてきたところであります。

そういった事から今回、避難場所を見直していく作業と今後の整備等について、本部PT会議の意見等を集約し、地域の方とも協議しながら進めていく必要があると考えております。

今後、県の新たな対策も参考にしながら須崎市にとって有効な手立てをとっていきたい。

【津波緊急避難場所の見直し（案）について】

昨年の4月から、地域の皆さんも参加して頂き、本部WG会議で緊急避難場所の選定と避難誘導にかかる協議をしてきた。

昨年の秋には86ヶ所の津波緊急避難場所を選定し、この間、避難訓練、検証等を通じて問題点を検討しているところです。

その中で今回公表された津波高の最大数値が23.9m。その数値を下回る緊急避難場所については、この本部PT会議で見直しを行っていくのか、今後、各地域の防災連絡協議会で再度協議を行うのかご協議頂きたい。

見直しの対象となる23.9mを下回る緊急避難場所は、市内86ヶ所の緊急避難場所の中で7ヶ所あり、そのうち避難ビルは2ヶ所となっている。

補足

- ・数値が足りない緊急避難場所のほとんどがさらに高台へ上がれる所を選定している。
- ・若干名称の変更等を要する箇所があり、その緊急避難場所についてはこの会の報告を受けて各防災連絡協議会代表者に説明し、地域に周知を願う。

Q：須崎の津波高の23.9mの基準点（場所）はどこなのか。

A：津波高の基準点の具体的な場所は知らされていない。今回の想定はシミュレーションの結果ではなくあくまで計算上の数値と受けているので、事務局も県の方から具体的場所などの情報は入っていません。今後、県を通じて国に詳細を質問していきたいと考えています。確認できれば本部PT会議等を通じて報告をしていきたいと考えています。

○地区別津波緊急避難場所の見直し

○避難ビル緊急避難場所

この場で詳しく協議するのではなく、いったん地域防災連絡協議会で話し合いをして、

協議会からの意見をもとに、再度この本部PT会議で対策を考える。

城山への避難は遠いなどの意見もあり、具体的に逃げ遅れた場合どうするのか、避難ビルの指定継続と併せて、地域の意向を踏まえて、本部PT会議に報告したいと考えている。

○名称の変更

津波からの緊急避難場所として浸透している場所の中で、さらに高い所へ行ける箇所は名称をそのままにしていたところがある。24mをクリアしていないところは、そこが最終的な緊急避難場所と誤った認識をされる住民もいると思うので名称変更等をどうしていくか地域内で話し合ってもらおうようにする。

Q：津波の到達時間がテレビなどでは地震発生後2・3分後と言う話もあるが、そのあたりのシミュレーションなどはどうなっているか。

A：具体的な地域ごとの津波到達時間、流速の詳細についての報告はない。実際どこの地域が一番高いのか、到達時間、流速はどれくらいなのか。防波堤があり、防潮堤があり、地形がありますので考慮して、今後、県からのシミュレーションも出てくると思います。

Q：今回は50mメッシュの津波高結果だが、今後10mメッシュの結果で津波高が変わるという事ですが、想定が上がった場合に見直しを迫られる事があると思うのですが、メッシュの推測結果がいつ出るのか。また想定を見直すか。

最大クラスの津波が11分で到達と書かれているが、想定が変わるたびにそれに合わせて変えるのか、それとも須崎市ではこうやるというのを決めていくのか。

A：10mメッシュの想定については5月ごろに国から示されると思う。緊急避難場所の見直しにつきまして、具体的に30mが出たら30m以上にするのか、というのは困難と考えている。

須崎市が現在設定している緊急避難場所については、高台が基本となっていますので、より高い所へ逃げるといような整備も含めて検討・提案させてもらいたい。

11分というのも具体的な浸水地域などの詳細が分かっておりませんので、今後、国に確認しながら分かれば報告させて頂きたいと思う。今回はあくまでも国の計算上の最大予測と考えていますので、具体的な地形等は考慮されてないと思います。もう少し詳細が分かれば皆さんの方にも報告したいと思います。

緊急避難場所の見直し(案)についてのまとめ

この会でいただいたご意見も踏まえ、地域の防災連絡協議会と一緒に我々も入り、地域に出て行って検討し、もう一度本部PT会議で協議する。その時に10mメッシュが出てい

ればそれも合わせて再度検討する。

【南海地震津波対策検討会設置要綱改正（案）について】

本部PT会議に各地区の地域防災連絡協議会会長にも入って頂く形で要項を変更
次の第5回からは地地域防災連絡協議会会長も出席

【地震予知防災について】の講習会（金子氏）

【第5回本部PT会議の開催について】

5月中の開催予定